北翔大学教育文化学部研究紀要第３号
Bulletin of Hokusho University
School of education and culture department No.3

平成30年１月
2018 January

大学生の被服購入時の実態および衣生活領域の理解度

The actual situation at the time of clothing purchase of The university student and Understanding degree of the clothes life domain

木　下　教　子
Noriko　KINOSHITA

Ⅰ．はじめに

小学校家庭科では，衣食住や家族の生活などの家庭生活に関する内容を学習対象として，人やもの，環境などとの関連を図りながら，製作，調理などの実習や観察，調査，実験などの実践的・体験的な活動を通して，基礎的・基本的な知識および技能を身につけるよう学習が展開されている。家庭科教育における志村[1)]の報告によると，大学生に衣生活領域の具体的な学習内容をふり返させると，被服製作，洗濯などに比べて衣服の手入れ，管理，布や繊維の種類については既習事項であるにもかかわらず，再現性が少ないとしている。現代社会における衣生活は，大量生産された既製服，ファストファッションの普及により，安く手軽に衣服を購入できるようになり，衣服選択時の過程でその後の着用，管理，保管，処分といったことを総合的に捉えて購入することが必要である。教員養成をめぐっては，教科の内容を熟知し，おさえておきたい知識，技能などを身につけるとともに，学校現場に立ったとき，変化の激しい時代に児童の生活状況に即応し，創意工夫した授業の展開が求められている。生活の課題を解決していくための能力をどのように育成していくべきかが重要な課題となっている。将来，教員として必要な資質・能力を育成するために，小学校家庭科における学習内容の知識・技能に対する理解度及び大学生の衣生活の実態や意識を明らかにすることを目的とし本研究を行った。

Ⅱ．方法

対象者は，Ｈ大学１，３年生70名を対象とし，「家庭科に関するアンケート調査」を2017年10月に実施した。回収率は87.1％であった。有効回答者61名（男性33名，女性28名）であった。

アンケートの調査項目については，対象者の属性（性別，居住形態），高校時の家庭科の履修状況，家庭科の各分野（家庭生活と家族，衣生活，食生活，住生活，消費と環境）に対する興味・関心度，既習後の役立っていること，小学校家庭科における学習内容（現家庭科学習指導要領に準じる）９項目を示し知識・技能に対する理解度について設問をした。調査方法につ

北翔大学教育文化学部教育学科

いては，佐藤[2)]と同様な方法で行った。衣生活に関する調査では，衣服を購入する時の優先順位，衣服の種類別の購入状況，服の手入れ，購入時の意識および選択する基準などについて調査を行った。

Ⅲ．結果

1．対象者の属性

調査対象者は61名であり，内訳は男性33名（54.1%），女性28名（45.9%）である。居住形態については，入学前は家族と同居が75.4%，一人暮らしが16.4%，学生寮・下宿8.2%であった。

2．家庭科の科目に対する興味・関心度および役立ったこと

高校時の家庭科の履修は90.2%が学習していた。家庭科の学習は家庭生活と家族，衣生活，食生活，住生活，消費と環境など各分野に分かれているため，その興味・関心度について4件法で設問した。その結果を図1に示した。「十分にあった」は食生活が55.7%と最も高いが，

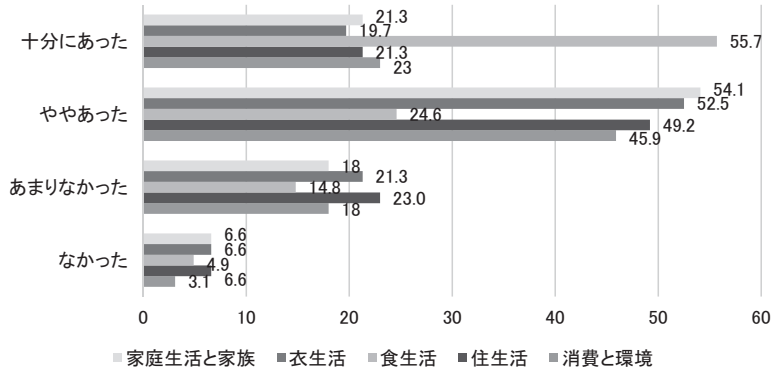


図1　各分野に対する興味・関心度（%）

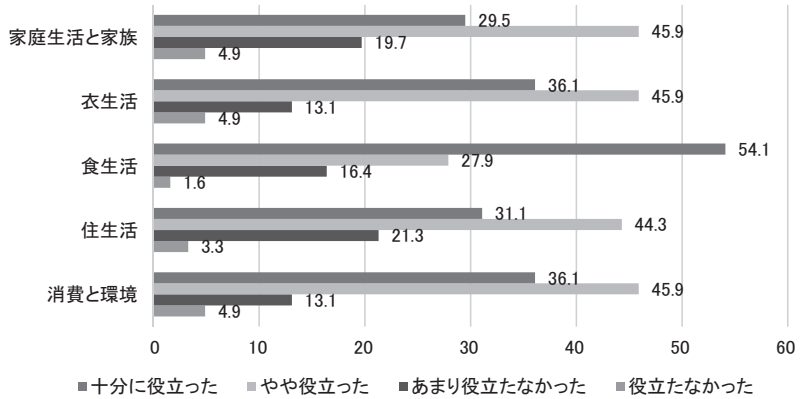


図2　役立っていること（%）

消費環境が23%，家庭生活と家族，住生活の 2 分野が21.3%，衣生活19.7%の順であった。

「十分にあった」「ややあった」を合わせると食生活が80.3%，家庭生活と家族75.4%，衣生活が72.2%，住生活70.5%，消費と環境68.9%の順となり，約 7 割以上は各分野で興味・関心を示していることがわかった。

次に家庭科で学習したことが実際の日常生活のなかで役立っているかについて，各分野について 4 件法で設問した。その結果を図 2 に示す。「十分に役立たった」は食生活が54.1%，衣生活36.1%，住生活31.1%，消費と環境36.1%，家庭生活と家族が29.5%の順であった。「十分に役立った」「やや役立った」を合わせると食生活，衣生活，消費と環境82.0%，家庭生活と家族75.4%，住生活75.4%の順となり，前述した各分野の興味・関心は 7 割以上であったが，役立っている割合が上回り 8 割以上であった。

次に家庭科を学習して現在，役立っていることについて自由記述したものを表 1 に示した。同様な記述はまとめて数値化した。

表 1　家庭科を学習して役立ったこと

分野	役だったこと
家庭生活と家族	家族の大切さ，優しくする。
衣生活	ボタン付け 7 名，裁縫 6 名，洗濯 4 名，手芸 3 名。 ミシン 4 名，布の使い方・縫い方がわかる 2 名。 洋服のしわの伸ばし方，たたみ方，洗濯表示の見方 4 名。 服を直したり，丈を合わせたりできる。 裁縫セットやミシンを使って物を作れる，衣服の修理・器具の使用法。 縫い方の種類を学んで実際にできること。
食生活	料理10名，食材の調理の仕方10名，調理実習 6 名，栄養バランス 6 名。 調理の手順，料理を学んだ知識が残ってよい，料理のレパートリーが増えた。 食材の知識や献立をつくるとき栄養素を考える。 加工食品や飲料の添加物を気にする，バランスの良い食事から健康な体を保つ。 基礎的な料理の作り方，少し難しい料理の作り方，包丁の使い方。 だしの取り方，三枚おろし，食文化，みそ汁や簡単なおかずができる。 食事の際のマナー，ひとり暮らしの時のごはんづくり。
住生活	掃除
消費と環境	お金の計画的な使い道。金銭的なものの管理。一人で生活できる。

家庭科を学んで役立ったことは，家庭生活と家族では家族の大切さ，住生活では掃除，消費と環境では金銭管理などがあげられたが，これらの 3 領域は記述が著しく少なかった。衣生活では洗濯，裁縫（布の使い方，縫い方）が食生活では食材の調理の仕方，献立作成時の栄養バランス，食文化，食事のマナーなどがあげられた。衣生活・食生活では製作や調理実習などで学んだことが役立っていると考えられる。

3．衣生活に関する調査

衣生活に関する調査は，小林[1)]らの調査方法を参考にして衣服購入時の優先順位，衣服の種

類別の購入状況，服の手入れ，購入時の意識および選択する基準などについて調査を実施した。

服を購入する時の優先する動機について図１に示した。１位「気にいった服があった」，２位「お金がある・安い」，３位「季節の変わり目」，４位「出かける・イベント」，５位「ストレス・気分」であり，購入する動機は「気にいった服があった」,「お金がある・安い」,「季節の変わり目」の順になった。

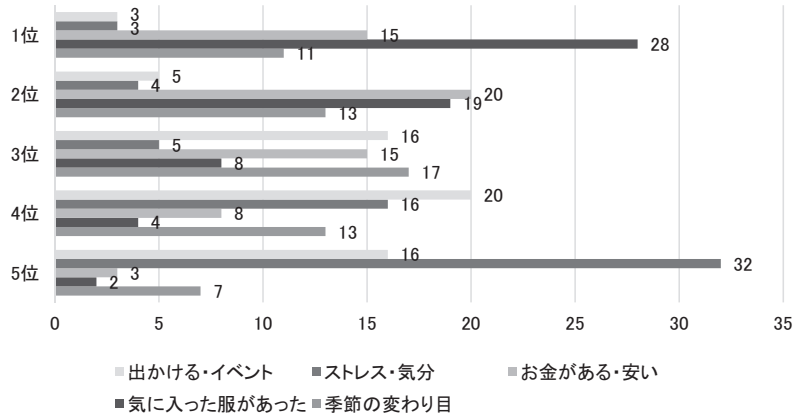


図３　購入時の動機（人）

服を購入する時に誰が購入するかについて，衣服の種類ごとに調査をして，図２に示した。

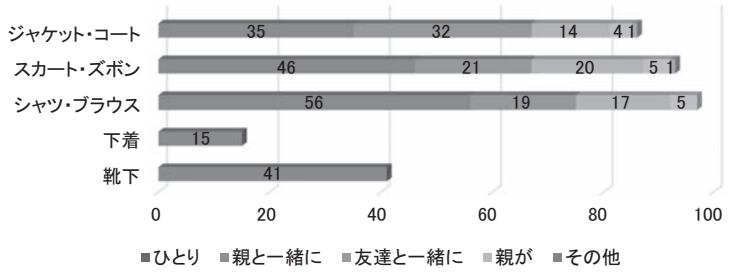


図４　衣服は誰が購入するのか（人）

ひとりで購入する被服はシャツ・ブラウス，スカート・ズボン，靴下，下着の順で，親と一緒に購入するものはジャケット・コート，スカート・ズボン，シャツ・ブラウスの順であった。

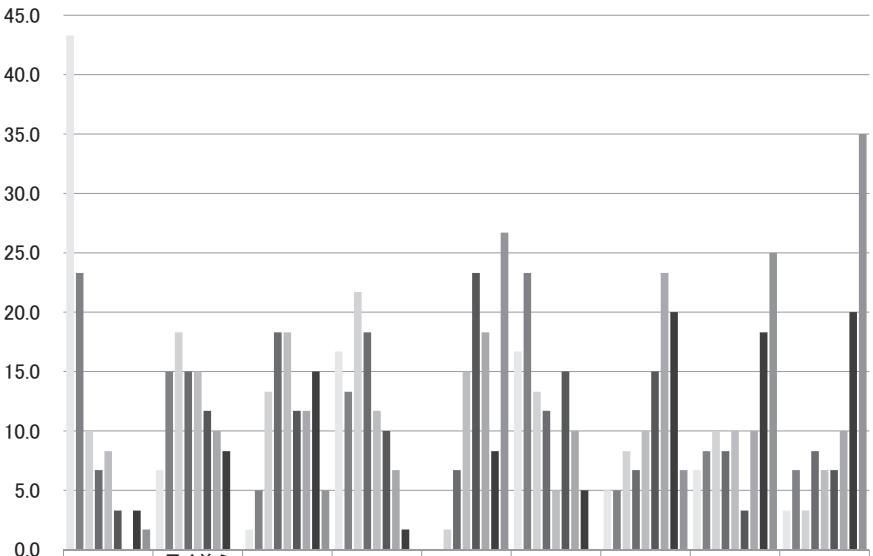
表２に服についての意識について，自由記述をしたものを示した。服の手入れ，かっこうよく見える，長く着られる，じょうぶである，着ごごちがいい，手入れがしやすいの６項目に分けた。「服の手入れ」については，洗濯の方法について，取扱い絵表示をみながら洗剤・柔軟剤の選択，色落ちしないなど洗濯方法についてが多かった。保管管理では被服を脱いだ後の整理としてハンガーの利用法，さらに衣服のほつれや毛玉など注意をしていることやコートのブラシかけ，ボタン付けがあげられた。

表 2　服についての意識

服の手入れ	洗濯＜色物分ける・洗剤を選ぶ・柔軟剤を入れる。洗濯表示見る（色落ちしないか，繊維がほつれやすくないか）・染み抜き・色落ちしやすいものは手洗い・下着類は他のものと分ける・しわを伸ばす。たたんでしまう＞。
	保管＜肩が出ないハンガーを使う・伸びやすいものはハンガーにかけない・スーツなどはほこりがつかないようにカバーをかける・着たらハンガーにかけておく。ほつれていないかチェック・ほつれたら切る・コロコロ・毛玉とり・ファブリーズ・汚れる時は汚れてもよい服装。冬用コートは毎日ブラシ掛け。ボタンは自分で付け直す＞。
かっこうよく見える	似合っている17，デザイン15，色13，自分が気に入っている８，スタイル６，素材２，メーカー・柄・周りからの助言３，コーディネート２，大人っぽく見える，流行，高い服，清潔
長く着られる	素材20，流行をおわない８，デザイン７，身体に合わなくなるまで着る５，オールシーズン４，着回しができる４，ほつれない３，色落ち３，型崩れしづらい３，シルク３，３年くらい着れる３，縫合の仕方３，汚れが目立ちにくい２，高い服２，洗濯による耐久性，社会に出てからも着ていられる，手入れをしっかりしている，値段に相応のもの
じょうぶである	素材23，ほつれない（破れない）12，洗濯を繰り返しても大丈夫７，値段５，伸びやすくない３，シルク３，ブランド２，しわにならない，縫製，くたくたにならない，手入れをしっかりしている
着ごごちがいい	肌触り17，体型に合っている17，素材16，ちくちくしない５，汗の吸水がよい３，動きやすい３，シルク３，ふわふわの物２，もこもこ，似合っているか，洗濯後の服，高い服
手入れがしやすい	洗濯がしやすい27，素材16，しわになりにくい８，色落ちしにくい４，毛玉ができにくい４，シルク３，ナイロン系の素材は手入れしやすい，絹やカシミアなどの素材でできているか，ゴミが付きにくい，服のタグ，汗などの吸収が良いもの，洗濯しても乾きやすいもの，クリーニングに出さなくてよい，アイロンがけがいらない服，高い服

「かっこうよく見える」は似合っている，色，デザイン，自分が気に入っている，スタイルがあげられた。「長く着られる」は素材，流行をおわない，デザイン性，身体に合わなくなるまで着る，オールシーズン着る，着回しができることであった。「じょうぶである」は素材，ほつれない（破れない），洗濯を繰り返しても丈夫，値段，伸びやすくないことが要素になっていた。「着ごこちがいい」は肌触り，体型に合っている，素材，ちくちくしない，汗の吸収がよい，動きやすいなど心地よさや快適性があげられている。「手入れがしやすい」は洗濯がしやすい，素材，しわになりにくいが多くあげられた。

次に服を買う時の優先順位について図５に示した。１位は「かっこうよく見える」43.3%，２位「値段が安い」23.3%，３位「着心地がいい」21.7%，４位「じょうぶである」18.3%，５位「長く着られる」15.0%，「手入れがしやすい15.0%，」７位「売っている店」23.3%，８位「流行している」18.3%，９位「ブランド」35%であった。



	かっこう	長く着られる	じょうぶ	着心地	手入れ	値段	店	流行	ブランド
1位	43.3	6.7	1.7	16.7	0	16.7	5.0	6.7	3.3
2位	23.3	15.0	5.0	13.3	0	23.3	5.0	8.3	6.7
3位	10.0	18.3	13.3	21.7	1.7	13.3	8.3	10.0	3.3
4位	6.7	15.0	18.3	18.3	6.7	11.7	6.7	8.3	8.3
5位	8.3	15.0	18.3	11.7	15.0	5.0	10.0	10.0	6.7
6位	3.3	11.7	11.7	10.0	23.3	15.0	15.0	3.3	6.7
7位	0	10.0	11.7	6.7	18.3	10.0	23.3	10.0	10.0
8位	3.3	8.3	15.0	1.7	8.3	5.0	20.0	18.3	20.0
9位	1.7	0	5.0	0	26.7	0	6.7	25.0	35.0

図５　服を買う時の優先順位（%）

４．衣生活に関する知識・技能に対する理解度

現行の小学校家庭科学習指導要領に準じて，C「快適な衣服と住まい」９項目（「衣服の衛生的，社会的な働きを理解している」，「夏季・冬季の日常着の快適な着方について理解している」，「日常着の手入れについて理解している」，「洗濯の仕方について理解している」，「ボタン付けができる」，「手縫いをすることができる」，「ミシンを用いた直線縫いができる」，「布を用い生活に役立つものを作成できる」，「製作に必要な用具の安全な取り扱いができる」）について４件法（４十分に理解している，３やや理解している，２あまり理解していない，１理解していない）で知識，技能に対する理解度を調査した。９項目について平均した結果を表２に示した。

表 3　衣生活に関する知識・技能に対する理解度

指導要領	項　　目	4 十分に理解している 人数（%）	3 やや理解している 人数（%）	2 あまり理解していない 人数（%）	1 理解していない 人数（%）	平均値 平均値±標準偏差
C	衣服の衛生的，社会的な働きを理解している	20 (32.8)	28 (45.9)	10 (16.4)	3 (4.9)	3.05±0.88
	夏季・冬季の日常着の快適な着方について理解している	17 (27.9)	35 (57.4)	7 (11.5)	2 (3.2)	3.08±0.78
	日常着の手入れについて理解している	14 (23.0)	30 (49.2)	14 (23.0)	3 (4.9)	2.89±0.86
	洗濯の仕方について理解している	25 (41.0)	28 (45.9)	5 (8.2)	2 (3.3)	3.21±0.86
	ボタン付けができる	27 (44.3)	18 (29.5)	7 (11.5)	7 (11.5)	3.00±1.15
	手縫いをすることができる	29 (47.5)	16 (26.2)	10 (16.4)	5 (8.2)	3.10±1.06
	ミシンを用いた直線縫いができる	27 (44.3)	22 (36.1)	6 (11.1)	1 (5.6)	3.18±0.92
	布を用い生活に役立つものを作成できる	16 (26.2)	18 (29.5)	19 (31.1)	6 (9.8)	2.66±1.08
	製作に必要な用具の安全な取り扱いができる	19 (31.1)	26 (42.6)	10 (16.4)	5 (8.2)	2.93±0.98

知識・技能に対する理解度が高かった項目は「洗濯の仕方について理解している」(3.21±0.86),「ミシンを用いた直線縫いができる」(3.18±0.92),「手縫いをすることができる」(3.10±1.06）であり，低かった項目は「布を用い生活に役立つものを作成できる」(2.66±1.08),「日常着の手入れについて理解している」(2.89±0.86),「製作に必要な用具の安全な取り扱いができる」(2.93±0.98）であった。

Ⅳ．考察

対象者の高校時の家庭科履修は約 9 割が学習していた。家庭科の各分野の興味・関心度について「十分にあった」は食生活が55.7%と最も高いが，消費環境が23%，家庭生活と家族，住生活の 2 分野が21.3%，衣生活19.7%と衣生活が最も低かった。興味・関心度について「十分にあった」「ややあった」を合わせると食生活が80.3%，家庭生活と家族75.4%，衣生活が72.2%，住生活70.5%，消費と環境68.9%の順となり，約 7 割以上は各分野で興味・関心を示していることがわかった。家庭科を学んで役立ったことは,「家庭生活と家族」では家族の大切さ,「住生活」では掃除,「消費と環境」では金銭管理などをあげ，これらの 3 領域は役立ったことの記述が著しく少ないことから，家庭生活を中心に衣食住の生活と消費と環境をよりつなげていく教材作成が必要であると考えられる。衣生活では洗濯，裁縫が食生活では食材の調理法，

献立を作る時の栄養バランス，食文化，食事のマナーなどがあげられた。速水ら[4]の調査結果から，小学校・中学校・高等学校の家庭科の授業で印象に残っている内容は調理実習，被服製作，保育実習，住生活実習に関する記述が全体の約９割を占めるとし，衣生活・食生活では製作・調理実習などで学んだことが役立っていると考えられる。また，大学生の被服の消費行動に焦点をあて，購入する動機では「気にいった服があった」，「お金がある・安い」，「季節の変わり目」が高率であり，服を買う時の優先順位については１位「かっこうよく見える」，２位「値段が安い」，３位「着心地がいい」，４位「じょうぶである」，５位「長く着られる」，「手入れがしやすい」，７位「売っている店」，８位「流行している」，９位「ブランド」あった。これらの動機と優先順位を合わせると，被服に関する嗜好性・経済性が優先され，着心地・耐久性・手入れ等が後退する結果となった。

前田[5]らは現代の幅広い衣服選択肢の中で，外観嗜好に陥らず，自身の正しいサイズを把握し，管理まで考えて衣服を選択することが，死蔵衣類を抑制することにつながり，そのために小・中・高等学校を通じた衣生活領域と消費生活を連結させることが重要であると報告している。被服を購入・選択する時の重要なポイントを把握するために現行の小学校家庭科学習指導要領に準じて，C「快適な衣服と住まい」９項目について設問した。知識・技能が高かった項目は「洗濯の仕方について理解している」，「ミシンを用いた直線縫いができる」，「手縫いをすることができる」であったが，「布を用い生活に役立つものを作成できる」，「日常着の手入れについて理解している」，「製作に必要な用具の安全な取り扱いができる」の項目が低かった。。

本研究をとおして，洗濯のしかたについては，概ね理解しているが，日常着の手入れについて低いこと，ミシンや手縫いができるが，生活に役立つものの製作や用具の安全な取扱いできないなど，基礎知識・技能を習得してもそれを応用して実生活に発展させられる創意・工夫する取り組みを培うこと，さらに衣生活領域と消費生活を連結させ，体系的に家庭科を学習させることが課題であることが，明らかとなった。

参考文献

１）志村結美，大橋寿美子：大学生の家庭科観　山梨大学　教育実践学研究13　2008

２）佐藤ゆかり，吉澤千夏，佐藤悦子，徳丸定子，細江容子，光永伸一郎：教員養成課程学生の入学時到達度調査からみた家庭科教育の課題　日本家政学会誌　VoI63　No.8　451～460（2012）

３）小林久美，長山芳子，松園美和：教員志望大学生の被服購入時の意識と衣生活の実態　九州女子大学紀要　第41巻１号　2004

４）速水多佳子，黒光貴峰：大学生の家庭科における調理，被服製作の知識・技能の習得状況にみる課題　日本家庭科教育学会誌　57(1)　14－21　2014

５）前田亜希子，野口愛：衣服選択における意識と実態に関する調査研究　群馬大学教育学部紀要　芸術・技術・体育・生活科学編　第49巻　193-198　2008